

5 本時（1時間目）の学習指導

- (1) 目標
- ・数図ブロック操作を通して、繰り下がりのある減法の計算の意味と方法を考えることができる。
  - ・計算の仕方について操作と結び付けながら筋道を立てて話し合い、減加法または減々法で計算することができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	相	予想される児童の反応	教師の支援等 課題解決能力 見見通し 共感性
<p>1 問題場面を把握し、立式する。</p> <p>2 13 - 9の計算の仕方を数図ブロックを使って考える。</p> <p>3 考えた計算の仕方を発表し、話し合う。</p> <p>4 類似問題をする。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>つかむ</p> <p>つくる</p> <p>確かめる</p> <p>ふりかえる</p>	<p>13 - 3は13のばらの3からひけばいい。今日は、13このかきから9こをとるんだな。ばらからひけないよ。どうすればいいかな。</p> <p>13 - 9の計算の仕方を考えよう。</p> <p>かぞえひき</p> <p>ひくひくほう</p> <p>ひくたすほう</p> <p>1つずつとるのは時間がかかるな。</p> <p>3をひいて、また6をひけばいい。</p> <p>10から9をひいて、3をたせばいい。</p> <p>友達の様子でやってみよう。</p> <p>まちがわずにできる。とった後、また残りを数えないといけない。</p> <p>ひくばかりだからやりやすい。3ひいた後、まだいくつひかなければいけないか考えないといけない。</p> <p>9を一度にひくから、はやくて簡単だ。ひき算なのにたさなくてはいけない。</p> <p>12 - 8の計算を自分が選んだやり方でしてみよう。</p> <p>ひくひくほうでも、ひくたすほうでも計算できるんだな。</p>	<p>・13 - 3を提示することにより本時と既習との違いをとらえるようにする。</p> <p>課 減る場面ということから13 - 9の式になることを確認し、その計算方法を考えるという本時の学習課題を把握できるようにする。</p> <p>・10のかたまりを意識させるため、数図ブロック盤（10の枠）を使うよう助言する。</p> <p>見 答えは10より小さくなることを確認した上で、数図ブロックを自由に操作させ、操作したことを図や言葉で表現するよう促す。</p> <p>・困っている児童には、ヒントコーナーでの具体物操作をするよう助言する。</p> <p>共 ノートにかいた図をペアに見せながら、言葉で説明する活動を通して、自分の考えを明確にすることができるようにする。</p> <p>評 数図ブロックを操作して計算方法を見つけ、図を使ってかいたり、言葉で説明したりできたか。</p> <p>・友達がどのようにブロックを動かしているか注意深く見て、自分と同じところや違うところを見つけるよう助言する。</p> <p>共 全員に3つのやり方を追体験させ、友達の考えを共有する場を設ける。</p> <p>評 自分が選んだ方法で他の計算をブロックを使ってできたか。</p> <p>・ひきざんマンに手紙を書くことで、本時の振り返りができるようにする。</p>